

令和3年 2月 吉日

「子ども家庭支援センターみらい」保護者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 大迫 より子

「児童発達支援事業所自己評価」（保護者向け）の結果について（報告）

立春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所に通園している保護者のみなさまのご協力のもと、保護者による自己評価を過日実施いたしました。

今年度は、入園して数日の方もいらっしゃる中でしたが、アンケートにご協力頂き、保護者全員の方のご意見を聞くことができました。その中の多くの項目で、概ね高い評価をいただきました。何より、『②子どもは通園を楽しみにしているか』『⑬日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか』の評価で満足しているという結果を頂いたことは、大きな励みとなりました。

課題となるご意見として、『③生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になられているか』に「いいえ」、『⑨保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか』『⑳㉑緊急時の対応』の項目に「わからない」「どちらともいえない」という意見が若干みられました。③での意見の事業所裏口の階段に関しては、現状としては車イスやベビーカーを使用する方は正面玄関に車を止めて頂くようにしています。今後の検討課題として対応について考えていきたいと思えます。「わからない」という意見の項目に関しては、入園したばかりの方にもしっかりと伝えるように、丁寧に伝えていくこと、理解していただくための工夫を考えていきます。

今後も、事業所への要望や意見等を寄せていただく中で、よりよい事業所づくりに努めていきたいと考えています。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 3年 2月 8日

事業所名 子ども家庭支援センターみらい

保護者等数(児童数)19 (21) 回収数 19 割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	1				基準以上のスペースを確保して活動をしています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	1			・専門性は十分であり、適切であると思います。 ・職員配置の数、正規の先生への負担増が心配です。	児童発達支援事業の基準の職員を配置しています。職員の日々の姿をみて、心配している保護者の方がいることは有難く、そのように感じさせてしまっている現状に反省です。今後、職員数を増やせるように検討していきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がい の特性に応じ、事業所の設備等は、バリア フリー化や情報伝達等への配慮が適切に なされているか	18		1		・裏口から入る時、階段 しかないので、スロープ があれば、車イスやベ ビーカーのまま入れると 思う。	現状としては裏口階段を スロープにすることは検討 が必要ですが、車イスや ベビーカーを使用する方 は正面玄関に車を止めて 頂き、対応させていただ いています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環 境になっているか。また、子ども達の活動に 合わせた空間となっているか	17	2			・床の汚れが気になる。	毎日清掃を行っていますが、 床に落としかねない汚 れがあるため、不快に感 じないように努力してい きます。
適切 な支 援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、児童発達支援計画*2が作 成されているか	18			1		子どもと保護者のニーズ を反映した計画作成に努 めていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイ ドラインの「児童発達支援の提供すべき 支援」、「発達支援(本人支援及び移行支 援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支 援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に選択され、その上で、具体的な支援内 容が設定されているか	17			2		わかりやすい説明を行 いながら、具体的な支援計 画となるように努めてい きます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われ ているか	17			2		個別面談の際に支援計画 について丁寧に伝えてい たします。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫 されているか	18			1		活動の意味や考え方につ いて、今後もわかりやすく 説明していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流 や、障がいのない子どもと活動する機会が あるか	16			3	・コロナで回数が減って いるが、交流が定期的 にあるので有難い。	今後も、コロナの状況、子 どもたちの実態に応じて 対応していきます。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説 明がなされたか	18	1				できるだけ、わかりやすい 説明を心掛けていきま す。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」のねらい及び支援内 容と、これに基づき作成された「児童発達支 援計画」を示しながら支援内容の説明がな されたか	18			1		支援計画、支援内容等、 しっかりと理解していただ けるように、努めていきま す。

保護者への説明等	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	19			<ul style="list-style-type: none"> ・まだ通園して数日だが、私に足りなかったものが分かった(褒める事が足りなかった)。 ・面談(施設長、保健師)では少し心が折れました。 	<p>数日の通園の中で、関わり方に気づかれたのは本当に嬉しいことです。これからは決して、気負わず、楽しみながら子育てができるように一緒に学び合っていきたいと思います。</p> <p>面談では、これまでの子育ての振り返りや我が子の発達課題を知る中で、心が苦しくなることがあります。苦しい気持ちだけでなく、今後への展望や解決への道筋を描いていくことができるように努めていきます。</p>	
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	19			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの変化や親の悩み等、些細なことでも相談しやすい関係で救われています。 ・常に相談できる環境です。 	<p>療育での姿、家庭での姿を語る時間を大事にし、子どもの今を共に見つめていける関係を今後も大事にしていきたいと思います。</p>	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19				<p>定期的な面談以外にも、気軽に相談できる場や人でありたいと思っています。些細なことでも気軽に相談してください。</p>	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	18			1	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会等でほご者同士悩みを話せる場があり嬉しい。 ・働いていると、仕事と子育ての兼ね合いのつけ方に戸惑いもあり、なかなか難しさを感じる事が現状です。子どもを育てるなら仕事どころではないと言われていた様で。親の生き方、人生も含めて子どものいる家庭として・と考えるとそこも含めて考えていただけたらと思います。 	<p>保護者の方々が、親の会活動を通してつながる心地よさを感じ、楽しく集うことができるようにサポートしていきます。</p> <p>働いている方々の気持ちは理解しているつもりではありますが、仕事と子育ての兼ね合いのつけ方に悩まれている中では、受けとめきれないこともあると思います。「～ねばならない」というものは全くありません。今後もいろいろなお気持ちを聞かせていただきながら保護者同士のつながりができればと思っています。</p>
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18	1				<p>今後も、相談に対して、できるだけ迅速に対応していくことを目指していきます。</p>
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	2			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話をきいていない(気づいていない)と思うことがある。 	<p>子どもの話をしっかりと聞く(気づく)力が向上していくように職員全体で努力します。</p>
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	18			1		<p>クラスだより、親の会運営委員会等で今後もわかりやすく必要な情報は早めに開示していくことを心掛けます。</p>
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	16	2		1		<p>引き続き、十分注意して取り扱います。</p>
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	16	1		2	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は引き渡し訓練の日には登園ではなかったのですが、行われていることを知れたのでよかったです。 	<p>各マニュアルは作成し、掲示しています。母子分離活動のため、親子での訓練はありませんが、今後親子での訓練を検討していきます(緊急時の送迎訓練実施)。</p>
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	2		2		<p>法令に従って訓練を開催しています。地域の消防署に相談し、その他必要な訓練を行っています。</p>
	22	子どもは通所を楽しみにしているか	19				<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく通えるまで支えてもらいました。 ・通園のシールを貼る事で楽しくやっている。 ・毎回、とても楽しみに通っています。いつもありがとうございます。 	<p>子どもたちにとって、安心できる場、楽しい場、自分を発揮できる場であるように努めていきます。</p>

満足度	23	事業所の支援に満足しているか	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものこまかい様子までとらえて支援していただき本当にありがとうございます。 ・通園して数日しかたっていないのでわからないことが多い。でも、言葉のかけ方で子どもは違ってくるのを学んだことは私にはとても大きい事だった。 	今後もよりよい「発達支援」「家族支援」「地域支援」を目指して取り組んでいきます。事業所に対する意見や要望は毎月開催している運営委員会や事業所玄関に設置している意見箱等にも気軽に出していただけます。
-----	----	----------------	----	---	--	--

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

令和3年 2月 吉日

関係者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 大迫 より子

「児童発達支援事業所自己評価」（事業所向け）の結果について（報告）

立春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援事業所自己評価」について、自己評価を過日実施いたしました。

事業所における自己評価につきましては、昨年同様に、非常時の対応「㊦どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している」の項目「いいえ」について、本事業所としては、身体拘束を行うことはありませんが、今後身体拘束が必要となる場合は、検討を行った末に支援計画に記載し、保護者の了解を得て支援を行っていきます。また、どのようなことが身体拘束にあたるのかは毎年実施している職員研修（虐待や人権についての研修）の中に取り入れ、理解を深められるよう努めています。

今回の自己評価をもとに、職員全体で話し合う中で、児童発達支援の役割（「発達支援」「家族支援」「地域支援」）について、取り組み一つ一つの意味について、そして福祉制度に至るまで、意見を出し合いながら、共通理解を深めることができました。

また、どの職員も「子どもをもっと理解したい」、「保護者の気持ちに寄り添った支援ができるようになりたい」と自らを振り返り、学びを深めていきたいという思いを抱いていました。しっかりと学ぶ機会を保障し、療育活動につなげていきたいと思えます。

今後も、信頼されるよりよい事業所であり続けていくために、事業所のあり方を問いながら、取り組みを進めていきたいと思えます。これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 8日

事業所名 子ども家庭支援センターみらい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令に従った職員数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子どもの実態に応じてわかりやすい環境づくり、発達を促すために必要な手立てを講じている。室内はバリアフリー、階段は手すりあり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		こまめに清掃、消毒を行っており、定期的に安全点検を行い、安心、安全な環境づくりに努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員で課題を共有し、業務改善に向けての話し合いを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見箱や親の会からの要望、個別面談等での意見をもとに、業務改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今回の評価をうけ、今後も定期的にアンケートをとり、公表していきたい。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人で定期的に行い、必要に応じて改善につなげている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人研修、外部研修への参加へ多くの職員が参加できるように、年間計画をたてている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		相談支援員、子ども、保護者のニーズをもとに、分析、検討を行い作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		できるだけ、わかりやすく具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿った支援について共通理解を深め、支援を行っている。児発管が定期的にチェックを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		年間、月、週、○○活動等、担当職員を中心にチームで療育内容の検討を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容の工夫を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団療育の中に、個別活動(個々の課題に応じた支援)を取り入れており、計画を作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に必ず打ち合わせを行っている(細かい対応については前日までに共通理解を図っている)。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に反省会を行っている。参加できない職員に関しては文書でのやりとりを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子どもの実態、支援のポイント変化、今後の課題につながる内容を記録するように心がけている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		支援計画に沿った、現状等を確認し合い、支援の方向性を検討している。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児発管が出席しているが、ケースに応じて担当職員も同席している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		地域のネットワーク会議への参加。ケースに応じて必要な連携を行い支援している。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			入園前の体験活動、連携会議、日常の電話等での実態把握を通して、情報共有、相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			ネットワーク会議への参加(情報提供、支援についての相互理解)。事前の見学体験活動、卒園後も必要に応じて、訪問、連携会議を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修会、公開療育等への参加し、連携及び学びを深めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			幼稚園保育園との併行通園児が多く、障がいのない子どもとの活動は日常的に保障されている。法人内の保育園との交流の機会がある(人形劇鑑賞等)。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			積極的に参加できるよう、努めている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			活動後の引継ぎ等で、できるだけ、具体的に伝えられるように努力している。家庭での様子や併行通園先での様子も含めて聞き取り、子どもの状況や課題について共有していくように努めている	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			定期的に学習会、交流会を実施している。親の会活動、法人の家族会活動等もあり、よりよいつながりや学びの場がある。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時にできるだけわかりやすく説明を行っている。契約後も日常的に質問に答えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			支援内容、支援計画についての説明を行う時間を設定し、保護者からの同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			定期的な面談、及び保健師による面談等を実施していく中で、子育ての悩みが解決していけるように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			親の会と連携しながら、楽しく交流する場、共に学びあう場をつくっている。法人の家族会、県父母の会への参加も状況に応じて保育体制をつくり支援している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談や申し入れには迅速に対応できるように体制をつくっている。苦情受付窓口や第三者委員会については契約時に説明を行い、事業所玄関に掲示している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			法人会報、事業所活動内容に関するお便りを定期的に発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人情報の取り扱いについて契約時に説明を行っている。取り扱いについては職員間で周知徹底し対応している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個々に応じて必要な支援(視覚支援含む)を行い、専門職のアドバイスも受けながら手立ての工夫をしている。	

40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	もちつき会、コンサート、避難訓練等、地域の方々に参加していただき、事業所の取り組みを理解していただき、よりよい関係の構築に努めている。田んぼ活動、森活動と地域の名人さんとの交流は常に大事にしている	今年度は新型コロナ感染防止のため、地域との交流に制限があったが、事業所の取り組みの様子を伝える文書や親の会からの手作りのマスクを配布した。田んぼ活動、森活動は実施し、名人さんとの交流は例年通り実施することができた。
----	------------------------------------	---	--	---

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	各種マニュアルを作成し、いつでも手に取って読めるように掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回以上実施している。日常の活動の中でも災害や避難等について考える時間や絵本の読み聞かせを定期的に行っている。	今年度は、緊急時の送迎訓練を実施したが、実際に想定していく中で、近隣の小学校、中学校との連携(道路が大渋滞する恐れがある)の必要性を感じた。車の誘導に関する連携、検討を行っていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	契約時のアセスメント等の中で確認している(書類に記入欄あり)、年2回の園内健診で再度確認し医療と連携している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	食物アレルギーに関しては、医師の診断に基づき、保護者と話し合い対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	朝の打ち合わせ及び毎月の職員会議の中でヒヤリハット事例について話し合っている。文書でも回覧し、職員で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部研修への参加、内部研修での学び合う機会を設けている。虐待、人権についての研修、職員のストレスチェック等についても定期的に行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	身体拘束は行うことがありませんが、どのようなことが身体拘束にあたるのかの理解(職員)を深めている。今後、身体拘束等について必要なケースに関しては、検討を行った末に支援計画に記載し、保護者の了解を得て、支援を行っていく。	